

令和5年度大学の生活と学びに関するアンケート（在学生/卒業年次）アセスメント報告

1. アンケート概要

本アンケートは、学生の大学生活・環境の把握、また大学生活での満足度とディプロマポリシーで掲げた身に付く能力を測るため実施している。集計した結果は、全学にフィードバックするとともに、教育活動や学生支援、施設・設備等の改善に活用する。

2. 基礎情報

(1) 実施時期

在学生：令和6年2月下旬～4月上旬（メール配信）

卒業年次：令和6年3月19日（卒業式ガイダンス）

(2) 対象：在学生1～3年生、卒業年次

(3) 回答率

大学在学生：863名／回答数573名／回答率66.4%

短大在学生：47名／回答数45名／97.1%

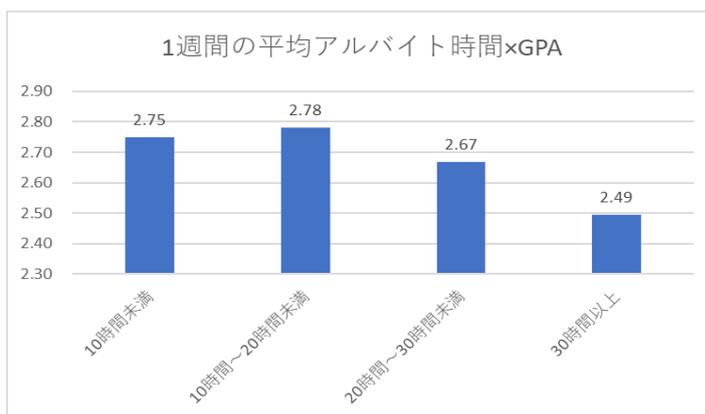
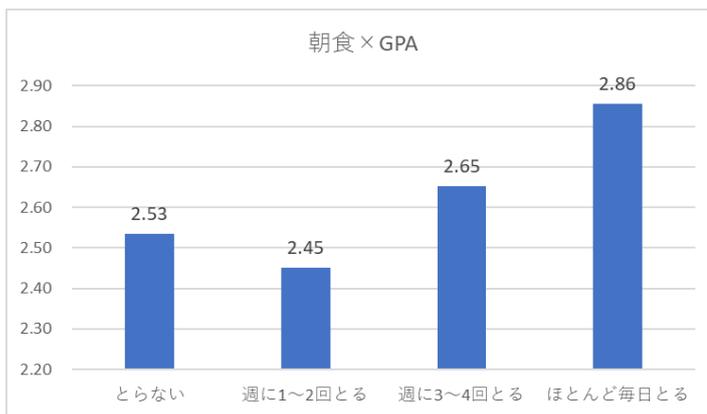
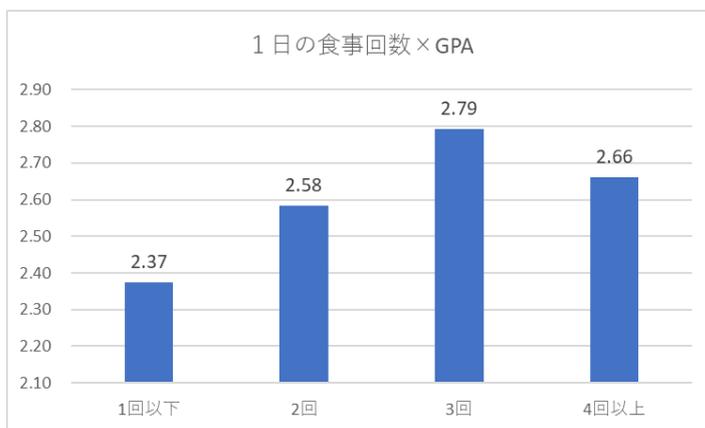
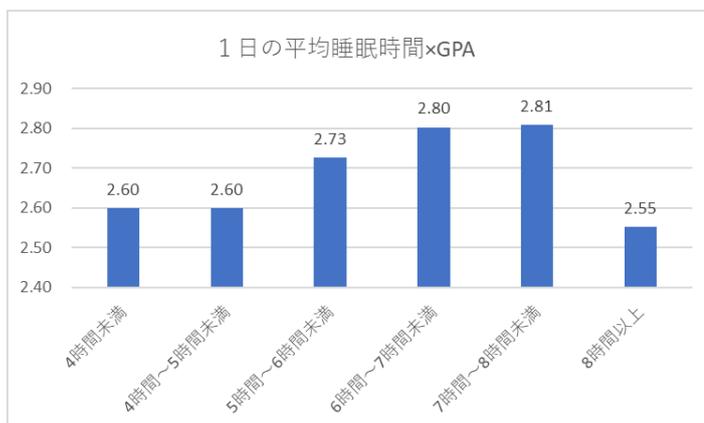
大学卒業年次：309名／回答数264名／回答率85.4%

短大卒業年次：51名／回答数40名／80.5%

3. アンケート結果分析

(1) 学生生活×GPA

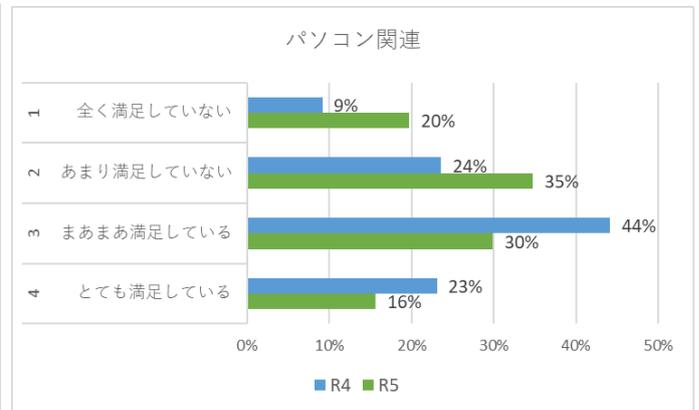
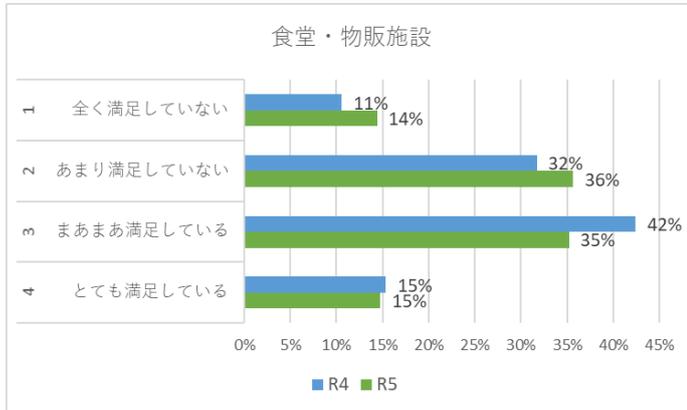
学生生活の設問について、GPAとの相関関係を確認したところそれぞれGPAが低い層がみられ、学業に専念するための学生生活の指標として表すことができる。



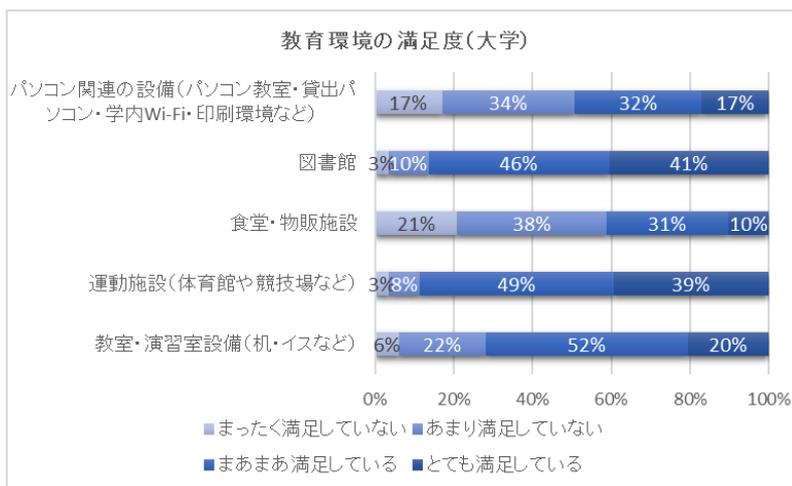
(2) 満足度前年度比較

教育環境の満足度が低かった2項目を経年比較。

「食堂・物販施設」、「パソコン関連の設備」については、令和4年度から比較しさらに「満足していない」、「あまり満足していない」と回答している層が増加傾向にある。



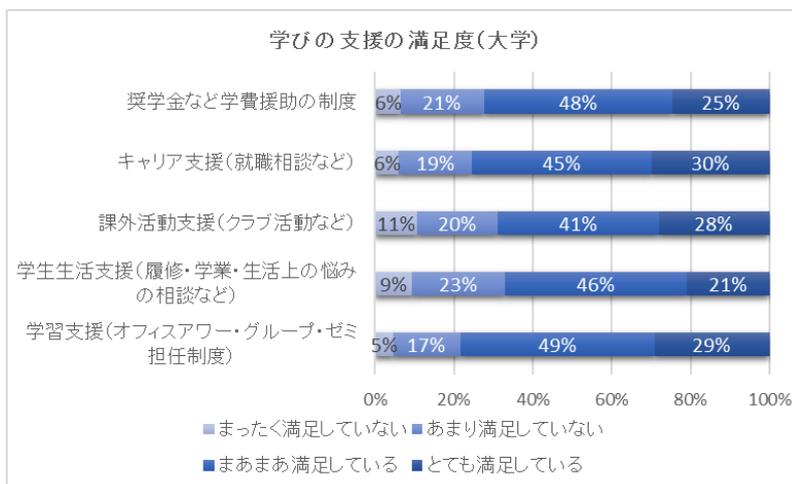
(3) 卒業年次の満足度 (大学)



例年同様、「食堂・物販施設」および「パソコン関連の設備」の満足度が他と比較し低い傾向にある。

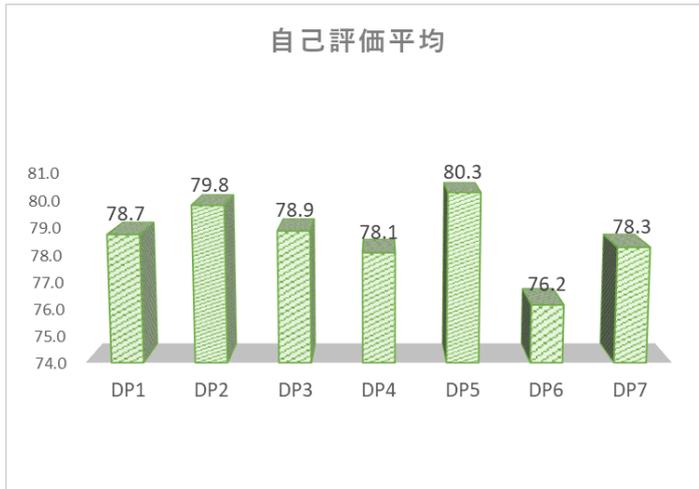
食堂については、昨年度の満足度の結果を受け学生部により改善策を検討し、内装のリニューアルを実施した。改善後の状況を今後把握していく。

パソコン関連の設備については、自由記述にあるWi-Fi環境についての不満が多くみられる。



その他の教育環境、学びの支援についてはある一定の満足度を得ている。

(4) DP 毎の成長実感 (大学 4 年生 R6 年 4 月時点)

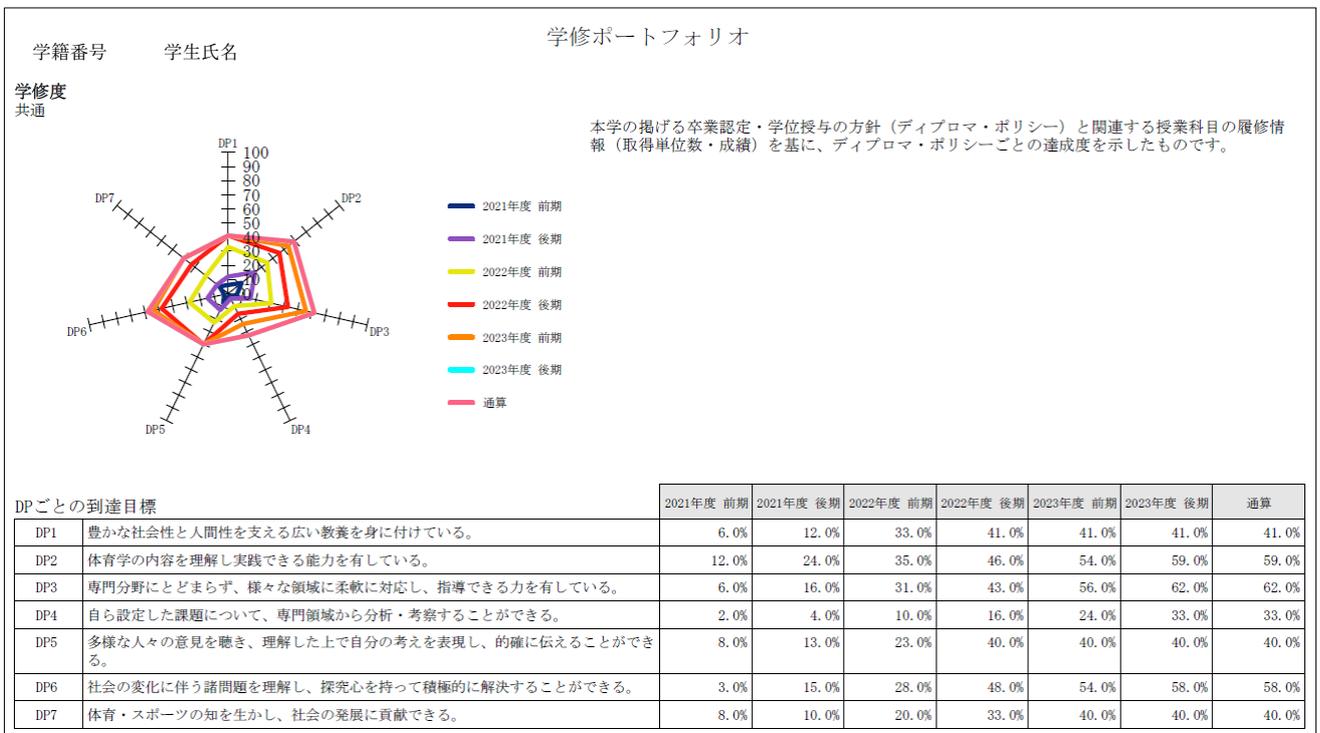


大学 4 年生を対象に DP 毎の成長実感(自己評価)を比較した。

DP5 の成長実感平均値が高く、DP6 については他の DP より低い傾向にある。

今年度から UNIVERSAL PASSPORT において学生が修得した成績と DP を紐づけ、達成状況(学修度)が確認できる。学修度は下記のように学修ポートフォリオとして可視化している。

※参考：大学 4 年生



学修度の平均を DP 毎にグラフ化した。

自己評価の高かった DP5 は学修度においては低い傾向にあり、逆に DP6 の自己評価は低めだったが学修度はそれほど低い値ではないことがわかる。

今後は、学修ポートフォリオを学生に認知させ、学生が学修度を確認しながら学びを向上させる取り組みを進めていく。

